

立つ鳥あとをにぎさず



愛知淑徳学園 理事長

小林 素文

愛知淑徳学園は現在の星が丘学舎にいたるまでに三回引越しをしています。

1905年に創立された時の学舎は、東区西新町にあった滝兵衛門(当時名古屋銀行頭取)所有の250坪の土地と150坪の建物でした。しかし、一学級で始める予定が予想以上の入学者があり、校舎として手狭であるため、西新町時代は、わずか一年で終わります。

1906年、東区東新町に千坪の土地を借り、使われなくなっていた近くの小学校校舎を移築した校舎で東新町時代が始まります。

学校も順調に発展していき、かねてからの念願であった講堂の建造を計画したところ、同窓会からの寄付も集まり、いざ実行に移ろうとしましたが、地主の許可が得られません。

学校に貸した20年前は麦畑や菜の花畑が広がっていた校地が、名古屋市の中心部の一角をなす

ようになっていたからです。地主にとって学校に貸すのは益少なく、講堂の建築を頑として認めません。

借地での学校の発展の限界を悟り、池下に土地を購入し、そこに校舎を建て、22年間の東新町学舎に別れを告げました。

1928年から池下時代が始まり、2年後には待望の講堂も建ち「困難に際してくじけず頑張る」という「淑徳魂」という言葉が生まれます。

その魂を抱いた運動部は全国大会を次々に制覇し、黄金時代を迎えますが、やがて戦時体制となり、正常な学校生活ができなくなり、やがて戦争が終わり、日本中が復興の歩みを進める中、淑徳も5期計画を立て、校舎の改築、建て替え、新築と力強く復興していきます。

最後の5期計画に入ろうとしていたとき、思いもかけない事態が発生します。

地下鉄を東山公園まで延伸する名古屋市の計画に伴い、その車庫用地として、池下の校地を提供せざるをえなくなったのです。

それで、戦後の新しい設置基準による校地面積を確保する必要があるから、1949年に東邦瓦斯から購入してあった星が丘に移転することになったのです。

池下校地は四千坪でしたが、新校地はその4倍以上の二万七千坪です。そこに斬新な近代的校舎を建て、31年におよぶ池下時代に別れを告げました。

1959年から星が丘時代が始まり、今日に至りますが、この移転について、当時の小林素三郎校長は同窓会誌『桜の実3号』1959年に次のように書いています。

新校舎に立ちて

かえりみえますれば、創立以来西新町―東新町―池下と居を移してきました学園は、創立五十五年目で理想の高台である桜ヶ丘に、近代的設備による学園を建設することが出来ました。

先ず移転式は快晴の三月三十一日に行われ、三十年の思いをこめた池下校舎を後にした時はさすがに感慨無量でありました。しかし全校あげて、ブラスバンド

に合わせ、堂々の行進で新校舎の正門を入った時は、万感胸にふさがりまた別の感激でいっぱいでした。

星が丘への引越しについては新聞報道もされました。

校旗、優勝旗を先頭に淑徳学園 新校舎へ引越し

千種区池下町、淑徳学園の校舎移転は31日行われた。早朝から全校生徒が登校して旧校舎を清掃、午前9時半から校庭でお別れの式を行い、生徒代表、田内良枝さん(高校三年)が「ながい間お世話になりました」と別れのことばをのべた。つづいて小林素三郎校長を先頭に2千人の生徒が校旗や優勝旗をかかげて約四キロ離れた同区桜ヶ丘の新校舎まで行進、テープを切って新校舎に入った。(毎日新聞、1959年4月1日朝刊より)

全校生徒が、間もなく取り壊される校舎を清掃しお礼を述べ、快晴の青空のもと、池下から星が丘まで堂々と行進し入場した新校舎で聞いた校長先生の最初のことは「今日は淑徳晴れ」でした。

このことばには「雲つない今日のように、淑徳生よ無限の空へ夢をかけて学校生活を送って

くれ」の思いが込められています。

立つ鳥あとをにぎさず希望に向かつて飛び立つ、まことにさわやかな引越し風景でした。そして、この地に移った英断がその後の淑徳の躍進を支えています。

追記

ところで、当時の新聞記事などでなぜ星が丘ではなく桜ヶ丘と書かれていたのでしょうか。

当時のバス停名は星が丘、地名は千種区田代町瓶入でしたが、新校舎に桜の木を多く植えたので、桜ヶ丘と学園が自称していたからなのです。現在の千種区桜が丘の地名は1976年の町名変更からです。

植樹した桜は、花が美しい染井吉野でしたが20年もすると大きく成長し、近所でも有名となりました。しかし、染井吉野は40年もすると老木となり、枝折れの危険があること、また、葉から落ちる毛虫が近所迷惑となっていたことなどから、枝打ちを繰り返えすうち桜の木も少なくなっていました。

やがて、長久手にも学園の学舎ができましたので、学園百周年のおり、それぞれの場所がわかりやすいようにと、「桜が丘学舎」の呼称を「星が丘学舎」と変更しました。